

## 首里城扁額製作検討委員会

# 第 2 回 検討委員会

2021年12月21日（火）14:00-17:00

### 【資料 1】 第 1 回検討委員会・ワーキング等の意見等

1-1. 第 1 回検討委員会・ワーキング・ミーティングの結果等

# 1-1. 第1回検討委員会・ワーキング・ミーティングの結果等

資料1

第1回検討委員会において、新たな知見の情報分析を優先させたいとの意見があり、新たな知見（文書分析、扁額事例）ミーティングにおいて情報整理を行い、3分野のワーキングにおいて扁額様式に関する確認を行った。

項目	主な意見等
古文書からの仕様	<small>かんぼうよねんこういんはちがつぎよひつごひょうぐならびにおんがくおしたてにつき</small> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 尚家文書360『咸豊四年甲寅八月 御筆御表具并御額仕立日記』の情報が、中国皇帝から琉球国王に送られた御書（同文式化）を扁額に仕立てた記録で参考となるため、これを中心に分析を進める。</li><li>・ 上述より「同文式化」の扁額については、文字の彫刻は乾隆帝(1784年)、地板・額縁の寸法は道光帝(1838年)、<u>額縁の彫刻・文様は康熙帝(1682年)</u>を手本として製作を行った。</li></ul>
製作期間	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 上述の尚家文書のとおり額縁を彫刻する場合、製作期間が長くなり、工期が読めなくなるため、製作期間を検討したうえで、正殿工事完成までに3枚のうち1枚だけを製作するかというという考え方も含めて検討する。</li><li>・ 各作業工程において、試作が必要という意見あり。</li></ul>
文字・落款	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 前回の文字を踏襲することとし、より適した文字があれば、それを見本として検討する。</li><li>・ 文字の彫刻については、同時期に琉球王国で作られた扁額事例に見られる陰刻と陽刻の双方の可能性を検討していく。</li></ul>
木工・彫刻	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 上述の尚家文書に「額縁彫刻」との記載があるため、額縁の彫刻については、皇帝が国王に送った扁額を調査対象として検討を進める。</li><li>・ 額縁を彫刻する場合、県内職人だけで対応できない可能性がある。</li></ul>
髹漆・加飾	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 上述の尚家文書より、地板の黄色塗については、正殿本体の彩色とも関連があるため、今後検討を行う。また、地板の四方の青塗については、漆か彩色かで検討を行う。</li></ul>
製作体制	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後の技術継承や若手の人材育成も踏まえて、検討を行う。</li></ul>